

屋久島



国: 日本
 銘記: 1993
 基準: (VII)(ix)

このサイトの保全見通しは、最新の評価サイクルで「いくつかの懸念はあるものの良好」と評価されています。以下のサイトに関する保全展望評価をご覧ください。要約や詳細な評価にアクセスすることができます。



2025年保全見通し

最終決定 2025年10月11日

概ね良好だが、やや懸念あり (Good with some concerns)

総じて、本資産の保全の見通しは引き続き良好であるが、利用者管理ならびにシカ個体群、外来種、気候変動の影響に関する長期的なモニタリングについては、いくつかの懸念が残されている。

1993年にIUCNが勧告した境界の拡張および、より統合的な管理体制については、いまだ実施されていない。しかし、これらの勧告は現在においても、管理体制の有効性および効率性を高める上で極めて重要である。

現行の限定的な境界設定は合理的とは言えず、本資産は周辺地域での活動による外部からの脅威に対して非常に脆弱な状態にある。

現在の価値観の現状と傾向

低い懸念レベル (Low Concern)

総じて、本資産の価値は概ね安定しているように見受けられるが、さまざまな脅威が認められる。地域的または微視的なレベルでは、特に高山帯において、利用者、シカ、台風の影響に関連した局所的かつ懸念すべき変化が生じており、踏圧、登山道の侵食、水系の変化などが報告されている。

また、島内における侵略的外来種、例えばタヌキ (*Nyctereutes procyonoides*) の存在や、気候変動の影響については、長期的な視点から慎重なモニタリングが必要である。

ヤクシカ（地域固有の亜種）の個体数は、過去10年間で大幅に減少しており、それに伴い本資産の価値に対する懸念も低減している。

全体的な脅威

低い脅威レベル (Low Threat)

これまでに確認されている最大の脅威は利用者による影響であり、現行の管理体制の下では十分に管理されていない。

もう一つの脅威はシカ（ヤクシカ）の過剰個体数に起因するものであるが、是正措置の実施により、過去 10 年間でシカの個体数は大幅に減少している。

その他に確認されている、または潜在的な脅威は、主として地震、台風、土砂災害などの自然過程に由来するものである。

侵略的外来種（例：タヌキ）、大気汚染、気候変動が本資産の主要な構成要素に及ぼす影響については、今後さらなる調査研究が必要である。

全体的な保護と管理

やや懸念あり (Some Concern)

本資産は比較的小規模であるにもかかわらず、現行の保護および管理体制（権限関係、管理計画、ゾーニング、管理機関）は不必要に複雑であるように見受けられる。登録から 30 年以上が経過しているが、これまでに行われた改善は比較的限定的であり、その多くは簡素化ではなく、むしろ官僚的な複雑性を増すものとなっている。これらの保護および管理の構成要素が、本資産に対して十分に高度な保護および管理を実際に提供しているのかという点については、疑問が生じる。

本資産の顕著な普遍的価値（OUV）については、一定の水準の保護は確保されているものの、利用者管理およびシカ個体群の管理に関しては、継続的な課題が存在している。1993 年に IUCN が勧告した世界遺産境界の拡張は、外部からの脅威に対する保全を強化する上で有効であると考えられる。

2024 年時点では、効果的な管理の実施に向けて、関係者間でエコツアーリズム総合計画の策定が協議されており、これは近い将来における適切な規制および管理の基盤となることが期待される。

一方で、現状では複数の主体にまたがる管理体制の複雑性が、意思決定および管理における多大な調整コストを生じさせており、問題となっている。本世界遺産に対して全面的な責任を負う統合的な管理主体の設置が求められる。あわせて、効果的な管理のためには、行政資源（人材、予算、専門性）の強化も必要である。